

川崎市総合教育センター

# 研究紀要

第12号  
(平成10年度)

川崎市総合教育センター

---

## はじめに

国際化・情報化・高齢化・少子化など急速に進む社会の変化にともない、教育の場にも新たな課題が提示されてきています。このような状況のなかで、21世紀を生きる子供たちに必要となるのは、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけることであり、豊かな人間性をそなえることでもあります。川崎市総合教育センターでは、研究の総括主題を「生きる力を育むための学校教育・社会教育の推進」、研究の重点を『心の教育・情報教育・教育課程の創造に関する研究を推進する』としました。そして、研究の総括主題および研究の重点に迫るよう3研究領域・3研究分野を設定し、それぞれ研究主題を設定し、調査研究を進めてまいりました。この研究の成果を研究紀要第12号としてまとめました。

収録されている研究報告は大きく三つに分類することができます。

一つは、今日の教育に求められている諸課題の解決や改善に向け、教科・領域等を越えた先導的な研究および所内外と協力・共同して行った研究の成果をまとめた5つの研究報告、二つ目は実践的研究及び情報・教材開発研究、そして、社会の変化や時代の進展にともなって要請される啓発的で先導的な課題研究等の研究の成果をまとめた16の研究報告、三つ目は、視聴覚教材、コンピュータ教育利用等、学習情報の資料開発・提供等に関する研究および各教科・領域等における教材開発および教材活用に研究の成果をまとめた2つの研究報告です。

この研究が教育の充実・改善に役立つことができれば幸いです。忌憚のないご批評並びにご指導をいただきますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、それぞれの調査研究に対しまして、当教育センター専門員はじめ多くの方々からご指導やご助言をいただきました。改めて深く感謝いたしますとともに、主任研修員、長期研修員、研修員の研究にご理解とご指導をいただいた各学校（園）の校長先生および関係の方々に厚くお礼申し上げます。

1999年6月

川崎市総合教育センター

所長 高橋 洋児

# 目 次

研究への取り組み	1
研究の機構	3
多文化共生の社会を目指した国際理解教育（国際理解教育研究会議） — 多文化講師と共に創る学習活動を通して —	下村 佳史 5
直観的に見たり、論理的に考えたりする力を 育成する指導に関する研究（算数・数学科研究会議） — 自ら考え、自ら問題を解決していくことのできる児童生徒の育成を目指して —	菱沼 彰 21
豊かな感性を育む造形活動（図工・美術科研究会議） — 様々な感覚に訴えかける素材を通して子どもの変化を探る —	川合 克彦 37
児童生徒のボランティアマインドの育成（児童生徒指導研究会議） — 福祉体験活動を通して —	元吉 正典 53
すすんで環境にかかわって遊ぶ子（幼児教育研究会議） — 「楽しさ」を実感できる園庭や遊具の工夫 —	河内 澄子 69
児童・生徒が主体的に使う道具としての コンピュータの利用に関する研究（コンピュータ教育利用） — 発達段階に応じた情報活用能力の育成とコミュニケーション活動の深まりを中心に —	金子 隆一 85
学習に生かす映像教材の開発研究（映像制作研究会議） — マルチメディア学習教材の開発をめざして —	大塚 正泰 101
学校教育相談の活性化をめざして（学校教育相談研究会議） — 学校における教育相談的なかわりを授業を通して探る —	大堰 一雅 117
学習障害児等の小集団を中心とした指導（学習障害児等の指導研究会議） — 集団生活や友だちとのかかわりに困難を示す児童への指導や支援のあり方 —	角田 博 133
養護教諭の行う健康相談活動（健康教育研究会議） — 保健室登校の児童生徒の実態調査から支援の進め方を探る —	峯田 清子 149
I E Pのマニュアルづくりとその普及（個別教育計画研究会議） — 川崎市立小学校障害児学級の実態を踏まえて —	山本 裕二 165
青少年教育施設における学校外活動の充実（社会教育Ⅱ研究会議） — 青少年教育施設における学社融合事業の実施 —	枝村 知 181

児童生徒の興味・関心を高める理科教材開発研究（第2次研究）……………川崎 等……	195
（理科教材開発研究会議）	
知的障害のある人の社会自立を促す学習内容に関する研究（職業教育研究会議）……………原田 道子……	207
— 卒業生の実態調査から —	
外国語を通しての異文化理解（小学校における外国語教育）……………小池 優一……	215
— ネイティブ・スピーカーとの体験的外国語学習を通しての国際理解教育 —	
情報教育における異校種間交流の可能性を探る（長期研修員による研究）……………吉野 勉……	223
— テレビ会議システムを利用して —	
一人ひとりを大切にす教育相談（カウンセラー研修）……………万徳 昇……	227
— カウンセリングのころとは —	
学級担任が行う教育相談（カウンセラー研修）……………星野 泰夫……	230
全校で取り組んだ人権尊重教育の事例集の作成（人権尊重教育研究会議）……………大平 眞史……	233
— 「のびやかに生きる2」—こどもが生きる人権尊重教育—	
平成10年度の研究に伴って開発されたCD-ROMの一覧……………	234
平成10年度の教育研究所連盟における研究発表者一覧表……………	235

# 総合教育センターとしての研究の取り組み

## はじめに

今日、子供たちを取り巻く状況が著しく変容するなかで、子どもたちに豊かな人間性を育てることが、重要な課題となっている。第15期中央教育審議会の答申では、これからの社会を「変化の激しい時代、先行き不透明な時代」とした上、これからの子供たちに求められる資質や能力は、変化の激しい社会を「生きる力」であるとし、一人一人の能力・適正に応じた教育を展開していくという考え方に立って様々な改善策が提言された。

このような時代背景のなかで、当川崎市総合教育センターにおいては、研究の総括主題を「生きる力を育むための学校教育・社会教育の推進」とした。そして、本市の学校教育・社会教育における今日的課題を受け、学校教育の重要な諸課題への解決の糸口となるよう研究を進めてきた。

## I 研究の性格

上記の総括主題のもとに、調査研究を進めるにあたっては、次の3つのことを基本的な視点としてふまえている。

- ・先導的研究の推進 …………… 社会の変化や時代の進展などに伴って要請される先導的課題に資する研究
- ・基礎的研究の推進 …………… 学校教育、幼児教育、社会教育等広く教育一般にかかわる基礎的課題に資する研究
- ・実践的研究の推進 …………… 広く学習指導、児童生徒指導、家庭教育、社会教育など実践的課題に資する研究

以上、3つの視点のもとに、本市の学校教育・社会教育・家庭教育における今日的課題について、その理論の構造化を図りながら研究を進めている。

## II 本研究紀要に収録した研究

平成10年度は、研究を〔教育課題、教科等研究〕〔情報教育研究〕〔教育相談、障害児教育研究〕の3領域に分け、さらに、それぞれの領域を〔課題研究〕〔基礎研究〕〔教材開発研究〕の3分野に分け、研究の性格や内容を明確にし、研究に取り組んだ。

〔課題研究〕は今日の教育に求められている諸課題の解決や改善に向け、教科・領域等を越えた先導的な研究及び所内外協力して行う研究である。

この分野では、国際理解教育：「多文化共生の社会を目指した国際理解教育」・社会教育Ⅱ：「青少年教育施設における学校外活動の充実」・人権尊重教育：「全校で取り組んだ人権尊重教育の事例集の作成」・学校教育相談：「学校教育相談の活性化をめざして」・学習障害児等の指導：「学習障害児等の小集団を中心とした指導」の5つの研究成果を掲載している。

〔基礎研究〕は学校教育、幼児教育、教育相談、障害児教育、社会教育等における基礎的諸課題の解決や改善に資する基礎および実践・応用的な研究である。

この分野では、算数・数学科：「直観的に見たり、論理的に考えたりする力を育成する指導に関する研究」・図工・美術科：「豊かな感性を育む造形活動」・児童生徒指導：「児童生徒のボランティアマインドの育成」・幼児教育：「進んで環境にかかわって遊ぶ子」・コンピュータ教育利用：「児童・生徒が主体的に使う道具としてのコンピュータの利用に関する研究」・健康教育：「養護教諭が行う健康相談活動」・個別教育計画：「IEPのマニュアルづくりとその普及」・職業教育：「知的障害のある人の社会自立を促す学習内容に関する研究」・小学校における外国語教育：「外国語を通しての異文化理解」・長期研修員による研究：「情報教育における異校種間交流の可能性を探る」・カウンセラー研修員による研究：「一人ひと

りを大切にする教育相談」：「担任が行う教育相談」の12の研究成果を掲載している。

〔教材開発研究〕は教科および学習情報の教材・資料開発・提供等に資する研究である。

この分野では、理科教材開発：「児童生徒の興味・関心を高める理科教材開発研究（第2次研究）」・映像制作：「学習に生かす映像教材の開発研究」の2つの研究の成果を掲載している。

### Ⅲ 研究会議の組織と運営

各研究会議は、学校および社会教育施設から派遣された主任研修員、研修員に当センター（研修）指導主事を加えて構成されている。定期的に研究会議を開催し、理論研究や課題に照準した検証授業等を積み重ね、確実な裏付けのある研究としている。また、各校種の園、学校、研究会と密接な連携を図りながら研究を推進している。

### Ⅳ 研究の成果

研究の成果については、研究報告会（例年6月第3金曜日）を開催して、前年度に終了した調査・研究の報告をすると共に、研究紀要を市内の全ての学校、公共機関および全国の主な研究機関に配付し、広く教育現場の日常の研究活動に生かせるよう配慮している。また、センターが実施する研修講座でも十分に生かしていくように努めている。

また、研究の成果として完成した教育用ソフト（CAIソフト）や視聴覚教材（主としてビデオ教材）等については、紀要同様に配付したり、貸出を行うなどして、その活用・普及に努めている。10年度に開発した教材は、紀要の巻末に一覧表にして紹介してある。

# 研究の機構

